

## 研修内容

実習：ビニールハウス(約 250 m<sup>2</sup>) と露地ほ場(約 200 m<sup>2</sup>) を利用した野菜の栽培

コース	特別な設備	推奨品目
① いちご高設栽培	環境制御機器、暖房装置、CO <sub>2</sub> 発生機、電照、UVB 機器	イチゴ
② 果菜類周年栽培	環境制御機器、暖房設備、CO <sub>2</sub> 発生機、養液土耕装置	トマト、キュウリ、イチゴ他
③ 無加温施設栽培	なし	葉物野菜や果菜類の周年栽培
④ 有機栽培	黄色防蛾灯	葉物野菜や果菜類の周年栽培

(詳細は別紙1のとおり。また露地ほ場での栽培は全コース共通実施。)

講義：就農に必要な総合的知識の講義(必修講義約70回、選択講義約50回)

〈主な講座の内容〉

### 必修

農業の基礎、土づくりと肥料、作物栽培の基本、野菜の栽培技術、病虫害防除、農薬の基礎知識、農業経営、農業機械、農地制度概要、農産物の流通販売、有機 JAS 認証、先進農家等現地調査、野菜栽培実習、育苗実習(トマト)、農業機械実習 ほか

### 選択

環境制御技術、各品目の栽培管理(イチゴ、トマト、キュウリ、メロン等)、共同出荷(トマト) ほか

## 研修コースの概要

### 1 イチゴ高設栽培コース

(高設栽培装置を使用した、イチゴの促成栽培)

- ・247 m<sup>2</sup> (6.5m×38m) のハウス内に設置した高設ベッド(地上1mくらいの高さで、腰をかがめずに栽培管理が可能)を用いてイチゴの養液土耕栽培を行い、技術を習得する。
- ・苗は9月に定植し、12月から5月にかけて収穫出荷を行う。
- ・ハウスには温風暖房機や炭酸ガス発生装置等の環境制御機器を整備しており、温湿度やCO<sub>2</sub>濃度等の環境制御技術を用いたイチゴの栽培管理技術を習得する。
- ・イチゴ苗、肥料、資材、灯油、電気等の費用負担が必要(概算150万円程度)。
- ・収穫期間中はほぼ毎日収穫作業と出荷作業が必要。
- ・出荷先は直売所、スーパーマーケット、量販店等、自身による販路開拓が必要。

### 2 果菜類周年栽培コース

(暖房設備、養液土耕装置を使ったトマト周年栽培またはいちご土耕栽培)

- ・247~299 m<sup>2</sup> (6.5m×38~46m) のハウス内に、トラクタで畝を立て、トマトまたはイチゴの養液土耕栽培を実践することで、栽培管理技術を習得する。
- ・温風暖房機や炭酸ガス発生機等による温湿度やCO<sub>2</sub>濃度等の環境制御技術と、養液土耕装置を用いた肥培管理技術を習得する。
- ・トマトは9月定植の長期穫りまたは、抑制栽培(9月定植)＋半促成栽培(3月定植)を組み合わせた年2作の栽培を行う。イチゴは9月に苗を植え付け、12月~5月に収穫を行う。
- ・苗、肥料、資材、灯油、電気等の費用負担が必要(概算60万円程度)。
- ・収穫期間中は、ほぼ毎日収穫作業と出荷作業が必要。
- ・出荷先は直売所、スーパーマーケット、量販店等、自身による販路開拓が必要。

### 3 無加温施設栽培コース

(無加温のビニールハウスを使った、葉物野菜や果菜類等の野菜周年栽培)

- ・230~260 m<sup>2</sup> (6.5m×35~40m) の無加温ハウスで、トラクタで畝を立て、葉物野菜や果菜類等を組み合わせた野菜の周年栽培を実践することで、栽培技術を習得する。
- ・葉物野菜は9月~7月に栽培する。果菜類はトマト(9月植、3月植)、キュウリ(9月植、3月植)、イチゴ(9月植)等の栽培ができるので自分で作付計画を立て栽培する。
- ・苗、種、肥料、資材、電気代等の費用負担が必要(概算、最低30万円程度)。
- ・栽培管理及び収穫出荷作業のため、ほぼ毎日ハウス管理が必要。
- ・出荷先は直売所、スーパーマーケット、量販店等、自身による販路開拓が必要。

### 4 有機栽培コース

(ビニールハウスを使った、化学的に合成された肥料や農薬を使用しない野菜類の栽培)

- ・120 m<sup>2</sup> (6m×20m) のハウス2棟、または260 m<sup>2</sup> (6.5m×40m) のハウス1棟で、トラクタで畝を立てて、葉物野菜や果菜類、根菜類、結球野菜等を栽培し技術を習得する。
- ・苗、種、肥料、資材、電気代等の費用負担が必要(概算、最低30万円程度)。
- ・肥料及び農薬は有機JAS規格に適合したものを使用する。
- ・栽培管理及び収穫出荷作業のため、ほぼ毎日ハウス管理が必要。
- ・出荷先は直売所、スーパーマーケット、量販店等、自身による販路開拓が必要。

### 5 全コース共通(露地栽培)

ほ場面積は約200 m<sup>2</sup>で、自身で作付け計画を立て、栽培管理から収穫・出荷作業までを実践する。有機栽培コースの研修生は化学農薬・化学肥料を使用しない野菜類の栽培を行う。